

## 調査観測計画見直しに関する強震動評価部会からの意見

2011.11.26

1. 「地震に関する基盤的調査観測計画」9頁に書かれた地震動（強震）観測の目的「地震動の強さ、強い地震動の周期及び継続時間と空間分布の把握、震源域の詳細な破壊過程の解明（中略）、表層の構造が地震動に及ぼす影響を明らかにして、強い地震動の予測にも寄与」を実現するためには、Hi-netと観測施設を共有して微小地震から強震動までを統一的に観測することを目的としたKiK-netだけでは不十分である。被害に結びつく地表の強震動を計測することを目的として地域の地震動を代表する環境を選んで設置されているK-NETを欠かすことができないので、K-NETも併せて基盤的調査観測に位置付けて長期間に渡って維持・運用する方向で考えて欲しい。
2. 地震動データのリアルタイム利用や長周期地震動への対応等、近年、急速に広がってきた新たなニーズに応えるため、KiK-netとK-NETで構成された地震動（強震）観測を連続観測化することが必要である。
3. K-NET及びKiK-netにより網羅的に地震観測が行われるようになったのは1995年の兵庫県南部地震以降のことである。それ以前に各機関で取得された貴重なデータを発掘し、データベース化して公開することが重要である。
4. 新総合基本施策で地震調査研究の成果を地震被害の軽減に繋げるために必要とされている「強震観測による地表及び構造物等の地震動波形データの取得」を実現するためには、まずは地震により被害を生じる地盤における地震動がどうなっていて、それが地盤条件でどう変わっていくかを明らかにする必要がある、そのために、軟弱地盤におけるアレ－観測等の機動的観測を充実させることや、地下構造の調査だけでなく地下構造のモデル化を行うことが重要である。なお、観測にあたっては、いろいろな地盤条件ごとに観測を行う必要がある。
5. 地震動予測に必要な地盤モデル作成のため、ボーリングデータ及び各種物理探査データの収集・整理を行い、データベースの構築、データの共有化を関係機関と連携して行うことが重要である。